

## 事例5

# 「自分で買い物したい」という声に応える買い物ツアー 【邑元会×深谷市社会福祉協議会】

### 取組概要

#### あかつき(特養)

- ・車両の提供
- ・運転手の派遣

#### 深谷市社協

- ・全体コーディネート
- ・車両用マグネットステッカーの作成
- ・運転手向け講習会の開催

#### 民生委員・自治会・ボランティア

- ・利用者宅の案内と見守り及び介助

### 移動支援



高齢者の移動手段・外出機会の確保

### ●取組内容

あかつき(特養)と社協、民生委員、自治会等が協働し、買い物困難者及び外出機会減少者の支援として、買い物・交流ツアーを試験的に実施しています。

2月の開催時は、11名の参加がありました。自宅等からスーパーまでの送迎の他、スーパーのイートインスペースでのサロンも行います。

送迎車両及び運転手の保険は施設にて加入し、ボランティア及び参加者の保険は自治会にて加入しています。

今後は、買い物ツアーを必要とする地域での月1回以上の開催を目指して、他の社会福祉法人への協力要請や全体の仕組みの改善を行っていく予定です。



↑あかつきの車両に乗り込む参加者



↑社協作成のステッカー

## ● きっかけ

生活支援体制整備事業の協議体にて、住民のニーズとして「自分の目で見て買い物をしたい」という声が上がったことが発端です。協議体の参加者であるあかつきからは、「車両を活用してほしい」との申し出がありました。そこで、社協、民生委員、自治会が協力して、住民へのアンケート調査や説明会を実施。住民の声に基づいて、買い物支援だけでなく、サロンも同時に行うことにしました。

まずはできるところからということで、あかつきが所在する2つの自治会の住民を対象に、平成31年2月から買い物・交流ツアーを始めました。

## ● 苦労・工夫したところ

住民へのアンケート調査や説明会を通じて、取組に住民の声を反映させました。買い物ツアーにサロンの要素を加えたことをはじめ、実施する曜日や買い物に行くスーパーも住民自身に考えてもらいました。また、アンケートには「ボランティアとして協力してもらえるか」という項目も設け、住民ボランティアの協力も得ました。

## ● 効果

- 法人 ・住民から「何をやっている施設なのかよく分からない」という声をもらうことがあったが、取組を通じて地域住民と顔の見える関係を築くことができる。
- 法人 ・施設に入所してしまうと地域と切れ目ができてしまう。まずは買い物ツアーを通じて地域との接点を持ち、地域の方に施設を知ってもらうことで、入居者と地域のつながりづくりの一助になる。
- 社協 ・地域と施設をつなぐことで、地域に笑顔の方が増える。
- 社協 ・施設や地域と連携することで、社協だけではできなかったことも行える可能性が出てくる。
- 地域 ・参加者からも好評で、「ゆっくりと買い物できて、自分で品物を選んで嬉しい」、「いっぱい買い物をして荷物が多くなっても自宅まで送ってもらえるので助かる」といった声があった。



↑ イートインスペースで実施した  
サロンにて行われたじゃんけん大会